



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)特別養護老人ホームあつべつ南5丁目	階数	3
建設地	札幌市厚別区厚別南5丁目975-16、30、39、44、45、1037-12	構造	RC造
用途地域	準住居地域、22条区域、18m高度地区、宅地造成工事規制区域、下水道処理区域内	平均居住人員	80人
建物用途	病院	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
竣工年	2019年4月 予定	評価の段階	実施設計段階評価
敷地面積	3,292 m ²	評価の実施日	2018年5月25日
建築面積	1,737 m ²	作成者	
延床面積	4,769 m ²	確認日	2018年6月8日
		確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)								
<p>BEE = 1.2 ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★ C: ★</p>	<p>★☆☆☆</p> <p>30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆☆ 100%超: ☆</p> <p>標準計算</p> <table border="1"> <tr><td>①参照値</td><td>100%</td></tr> <tr><td>②建築物の取組み</td><td>77%</td></tr> <tr><td>③上記+②以外の</td><td>77%</td></tr> <tr><td>④上記+</td><td>77%</td></tr> </table> <p>(kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	①参照値	100%	②建築物の取組み	77%	③上記+②以外の	77%	④上記+	77%	
①参照値	100%									
②建築物の取組み	77%									
③上記+②以外の	77%									
④上記+	77%									

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Qのスコア= 2.8</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.0</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.0</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.5</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 3.4</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.3</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.8</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 2.9</p>

3 設計上の配慮事項			
総合		A 省エネルギー	
特別養護老人ホームの入居者の居室は80室とし、地域住民の災害時避難施設としての福祉避難スペースを設ける。		建物は内断熱としており、入居者の居室等は熱損失の低減に考慮し、アルミサッシ+樹脂サッシ(ペアガラス)としている。節水型水栓や熱交換型換気扇、照明にはLED照明を採用し、省エネルギー化に努める。	
B 省資源等	C 緑化	D 雪処理	
地域材や道産材を積極的に採用し、省資源化に取り組んでいる。また、都市ガスを採用し輸送コストの削減に配慮している。	敷地の道路沿いに生垣を設け、街並みに潤いを与え親しみやすい施設づくりを目指している。	敷地内に堆積スペースを設ける計画としている。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE札幌2016(ver.1.3)
 (仮称)特別養護老人ホームあつべつ南5丁目

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0
 ■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.3)
 欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体-共用部分		住居-宿泊部分		全体
配慮項目	重点 評価項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数		
Q 建築物の環境品質							2.8	
Q1 室内環境				0.40	-		3.0	
1 音環境			3.0	0.15	2.8	1.00	2.9	
1.1 室内騒音レベル			3.0	0.40	3.0	0.40		
1.2 遮音			3.0	0.40	2.6	0.40		
1 開口部遮音性能			3.0	0.40	3.0	0.30		
2 界壁遮音性能			3.0	0.60	3.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	2.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	2.0	0.20		
1.3 吸音			3.0	0.20	3.0	0.20		
2 温熱環境			3.3	0.35	2.8	1.00	3.2	
2.1 室温制御			3.6	0.50	3.4	0.50		
1 室温			3.0	0.38	3.0	0.57		
2 外皮性能	省エネ	外壁U=0.4m ² /mK、窓U=3.4m ² /mK	4.0	0.25	4.0	0.43		
3 ゾーン別制御性		各階各ユニット毎でゾーニングし、共同生活室はエアコン(冷暖房)を設置	4.0	0.38		-		
2.2 湿度制御			3.0	0.20	1.0	0.20		
2.3 空調方式			3.0	0.30	3.0	0.30		
3 光・視環境			2.6	0.25	3.3	1.00	2.7	
3.1 昼光利用			1.8	0.30	4.2	0.30		
1 昼光率		居室U≧2.5、共同生活室U≧0.8	1.0	0.60	5.0	0.60		
2 方位別開口				-		-		
3 昼光利用設備	省エネ		3.0	0.40	3.0	0.40		
3.2 グレア対策			3.0	0.30	3.0	0.30		
1 昼光制御	省エネ		3.0	1.00	3.0	1.00		
2 映り込み対策				-		-		
3.3 照度			3.0	0.15	3.0	0.15		
3.4 照明制御			3.0	0.25	3.0	0.25		
4 空気質環境			3.0	0.25	3.0	1.00	3.0	
4.1 発生源対策			3.0	0.50	3.0	0.63		
1 化学汚染物質			3.0	1.00	3.0	1.00		
4.2 換気			3.0	0.30	3.0	0.38		
1 換気量			3.0	0.50	3.0	0.33		
2 自然換気性能				-	3.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮			3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3 運用管理			3.0	0.20		-		
1 CO ₂ の監視				-		-		
2 喫煙の制御			3.0	1.00		-		

Q2 サービス性能			—	0.30	-	-	3.0
1 機能性			3.1	0.40	4.2	1.00	3.3
1.1 機能性・使いやすさ			3.0	0.40	5.0	0.60	
1	広さ・収納性	居室1室あたり12.6㎡以上確保		-	5.0	1.00	
2	高度情報通信設備対応			-		-	
3	バリアフリー計画		3.0	1.00		-	
1.2 心理性・快適性			3.0	0.30	3.0	0.40	
1	広さ感・景観 (天井高)			-	3.0	0.50	
2	リフレッシュスペース			-		-	
3	内装計画		3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理			3.5	0.30		-	
1	維持管理に配慮した設計	該当する取組みが6点以上	4.0	0.50		-	
2	維持管理用機能の確保		3.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性			2.9	0.30		-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50		-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80		-	
2	免震・制震・制振性能		3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数			3.0	0.30		-	
1	躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源	3.0	0.20		-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源	3.0	0.10		-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源	3.0	0.10		-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源	3.0	0.20		-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源	3.0	0.20		-	
2.4 信頼性			2.8	0.20		-	
1	空調・換気設備	災害時において重要度の高いシステムを運転	4.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備		2.0	0.20		-	
3	電気設備		3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備		2.0	0.20		-	

3 対応性・更新性				2.9	0.30	2.4	1.00	2.7
3.1 空間のゆとり				2.4	0.30	1.8	0.50	
1 階高のゆとり				2.0	0.60	1.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ				3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.30	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				3.2	0.40		-	
1 空調配管の更新性				3.0	0.20		-	
2 給排水管の更新性				3.0	0.20		-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.10		-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.10		-	
5 設備機器の更新性			主要設備機器の更新時、建物機能の維持	4.0	0.20		-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出			緑化	2.0	0.30		-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			緑化	3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30		-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			雪処理	3.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			省資源 緑化	2.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-		-	3.4
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制			省エネ	BPI _m =0.69	5.0	0.20		5.0
2 自然エネルギー利用			省エネ	トップライトを使用	4.0	0.10		4.0
3 設備システムの高効率化			省エネ	[BEI][BEI _m] = 0.72	4.6	0.50		4.6
4 効率的運用				3.0	0.20		-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00		-	
4.1 モニタリング			省エネ	3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制			省エネ	3.0	0.50		-	
集合住宅の評価					-		-	
4.1 モニタリング			省エネ		-		-	
4.2 運用管理体制			省エネ		-		-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	2.8
1 水資源保護				3.0	0.20		-	3.0
1.1 節水				3.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.70		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減				2.7	0.60		-	2.7
2.1 材料使用量の削減			省資源	2.0	0.10		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			省資源	3.0	0.20		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			省資源	3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			省資源	1.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			省資源	3.0	0.10		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			省資源	内装材と設備の錯綜なし	4.0	0.20		-

3 汚染物質含有材料の使用回避			3.2	0.20		-	3.2
3.1 有害物質を含まない材料の使用		対処物質を含有しない建材が4つ以上	5.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			2.5	0.70		-	
1 消火剤	省資源		-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)	省資源		3.0	0.50		-	
3 冷媒	省資源		2.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30		-	2.9
1 地球温暖化への配慮	省資源	評価シートによる自動算出	3.9	0.33		-	3.9
2 地域環境への配慮			2.4	0.33		-	2.4
2.1 大気汚染防止	省資源		3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善	省資源 悪化 雪処理		2.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減	省資源		3.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制	省資源 雪処理		2.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮			2.4	0.33		-	2.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1 騒音			3.0	0.33		-	
2 振動			3.0	0.33		-	
3 悪臭			3.0	0.33		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			1.6	0.40		-	
1 風害の抑制			1.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制				-		-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70		-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30		-	

Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency

CASBEE札幌



重点項目 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.3)

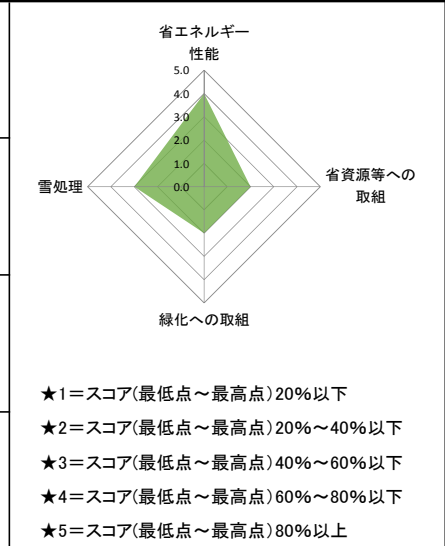
1 建物概要

建物名称	(仮称)特別養護老人ホームあつべつ南5丁目	BEE	1.2	BEEランク	B ⁺
建物用途	病院				
延床面積	4,768.5 m ²				

2 重点項目への取り組み

レーダーチャート

地球 温暖化 対策	最重点項目 省エネルギー	★★★★★
	省資源等	★★★☆☆
	緑化	★★★☆☆
	雪処理	★★★☆☆



3. 重点項目のCASBEEスコア

A 省エネルギー (最高点 23.1 最低点 6.6)		合計		19.2点 /23.1点	
Q1 温熱環境	スコア 0.7 /1.0	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア 4.0 /4.0		
Q1 光・視環境	スコア 1.3 /2.1	LR1 自然エネルギー利用	スコア 1.6 /2.0		
		LR1 設備システムの高効率化	スコア 9.2 /10.0		
		LR1 効率的運用	スコア 2.4 /4.0		
B 省資源等 (最高点 23.7 最低点 7.7)		合計		13.5点 /23.7点	
Q2 耐用性・信頼性	スコア 0.6 /1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア 4.9 /9.0		
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 0.9 /2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア 1.1 /1.9		
		LR3 地球温暖化への配慮	スコア 3.9 /5.0		
		LR3 地域環境への配慮	スコア 2.1 /4.4		
C 緑化 (最高点 15.3 最低点 3.1)		合計		7.3点 /15.3点	
Q3 生物環境の保全と創出	スコア 1.8 /4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア 1.0 /2.5		
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア 3.6 /6.0				
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 0.9 /2.3				
D 雪処理 (最高点 3.0 最低点 0)		合計		1.0点 /3.0点	
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 1.0 /1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア 0.0 /2.0		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■重点項目の最高点は、各評価項目でレベル5で評価された場合の点数

■重点項目の最低点は、各評価項目でレベル1で評価された場合の点数